

医学系研究に関する情報公開について

西暦 2025 年 2 月 5 日作成

下記の研究は、福岡リハビリテーション病院の医療倫理委員会から承認され、病院長の許可を得て実施するものです。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	慢性心不全患者の ADL 変化に対する医療従事者と患者・家族の視点の乖離の検討
当院の研究責任者 (所属)	リハビリテーション部 池尻 道玄
研究期間	病院長許可日 ～ 西暦 2025 年 8 月 21 日
調査データの該当期間	西暦 2020 年 11 月 1 日 ～ 西暦 2023 年 3 月 31 日
研究対象となる方	当院にて、2020 年 11 月 1 日～2022 年 3 月 31 日の期間中に心不全の治療及びリハビリテーションを施行した方
研究の意義と目的	近年、入院中の安静臥床に伴って生じる“入院関連機能障害(HAD)”が注目されています。特に慢性心不全患者は、再入院率が高く、入院を契機とした ADL の低下や身体機能・認知機能の悪化が懸念されます。 2024 年度の診療報酬改定により、リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算が新設され、ADL の低下を予防するための介入が求められています。しかし、医療従事者は「入院時の ADL を維持・向上させること」に重点を置く一方で、患者や家族は「心不全増悪前の ADL への回復」を期待する傾向があり、この認識の違いがリハビリテーションの目標設定や退院後の生活に影響を及ぼす可能性があると考えます。 本研究では、慢性心不全患者の入院前、入院時、退院時の ADL を比較し、医療従事者と患者・家族の視点のズレを明らかにすることを目的とします。これにより、より患者中心のリハビリテーション戦略の構築につなげ、HAD の予防及び退院後の生活の質の向上を図ることが本研究の意義です。
研究の方法	後方視的観察研究
研究に用いる試料・情報	①基本情報:年齢、性別、身体計測、介護保険認定、独居・支援。②医学的情報:診断名(重症度)、既往歴、心臓超音波検査(LVEF、LAD)、血液データ(血清 Cre、Alb、BUN、eGFR、CRP、Hb、Na、BNP)、治療方法(デバイス挿入)、治療経過(退院日、在院日数、転帰先)。③リハビリテーション評価:入院前の生活機能(厚生労働省「基本チェックリスト」)、入院中の身体機能評価(Short Physical Performance Battery、握力、通常歩行速度、上腕・下腿周径)、日常生活動作(Barthel Index)、フレイルの有無(日本版

	Cardiovascular Health Study Index)、リハビリテーションの内容(実施期間、実施単位数、リハビリテーションの内容)。
外部への試料・情報の提供	なし
個人情報の取り扱い	利用する情報は、匿名化(どのデータが誰のものをわからなくすること)をします。個人情報を厳重に保護し、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も個人が特定されない形式で行います。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反にある企業等はありません。
お問い合わせ先	福岡リハビリテーション病院 所属 リハビリテーション部 担当者: <u>池尻 道玄</u> 電話: 092-812-1555(代表) 対応可能時間 平日 9:00～17:00